

令和5年度 つくば国際大学東風高等学校 自己評価表

教育目標	「ひたむき」「誠実」「謙虚」の学校づくり 社会人として求められる確かな学力や豊かな人間性を身につけさせ、自己の将来を見つめた職業観・勤労観に基づく進路実現を支援すると共に、「国際性・社会性・実用性」を重視した教育を推進し、国際的視野を持った、社会に貢献できる人材の育成に努める。		
目指す学校像	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒・教職員、共に学び続ける学校 2 生徒・教職員の信頼関係が構築された学校 3 懇切丁寧な指導・きめ細かな指導を実践する学校 4 一人ひとりの個性に応じた多様な進路実現が図れる学校 		
重点項目	重点目標	達成状況	
学習指導の充実	新しい教育課程が学年進行で実施され2年目となり、その変化に対応した指導内容と指導方法の研究を継続して実施する。	A	A
	(1) 教師としての教科の専門性、指導技術の向上を図るために、「学び続ける教員」としての自覚をもち、日々研鑽に励む。	A	
	(2) 「楽しく・わかりやすい授業」にすべく、校内研修(研究授業)や自主研修(教材研究)に励み、教科の指導内容、指導方法の工夫・改善を図り、授業を充実させる。	A	
	(3) 本年度をICT教育3年目と位置づけ、教科指導にiPadや電子黒板等のICT機器(ツール)を積極的・効果的に活用し、「楽しく・わかりやすい授業」を実践する。	A	
	(4) 少人数指導や習熟度別指導を生かして懇切丁寧な指導・きめ細かな指導を行い、基礎的・基本的な内容や発展的な内容の定着を図る。	A	
	(5) 生徒の家庭学習の習慣化を図り、予習・復習の学習習慣を定着させ、確かな学力の向上を図る。	B	
	(6) 課外授業の充実を図ると共に、生徒の自主学習を支援し、生徒自身の学びを深める。	B	
キャリア教育の推進	(1) 自分の将来設計・将来展望の中に建設的に上級学校等への進路を位置付け、自分の将来に対して夢や希望が持てるよう指導する。	A	A
	(2) キャリアガイダンス、キャリアカウンセリング、進路別見学会、進路講演会、大学出前授業などの機会を提供し、進路(進学・就職)に対するしっかりとした動機付けを図る。	A	
	(3) 個々の生徒の進路希望、学力の実態及び今後の発展性などを常に把握しながら、より上位の進路目標を設定させ、その達成に向け全力を傾ける。	A	
心の教育の推進	(1) 生徒への気配り・心配りなどの配慮を旨とし、生徒理解のための教員と生徒との一対一の関係を重視した教育相談を日常的に実施し、生徒との信頼関係を構築して、心の教育を推進する。	A	A
	(2) はるかぜ道徳を通して、人間としての在り方・生き方の教育を推進し、豊かな人間性を育む。	A	
	(3) 東風クラブ(カウンセラー、コミティー、パーティー、クラス)や学校行事、部活動などの特別活動を推進し、生徒間の交流を活性化させ、生徒の自主的・実践的な態度や社会性、自尊感情・自己有用感などの人間性を育む。	B	
	(4) ボランティア活動や挨拶・服装等の向上を図るマナーアップ運動を展開し、社会人として必要なルールやマナーの基礎を育てる。	B	
不登校生徒や発達障害の傾向を持つ生徒への支援の充実	(1) 不登校生徒や発達障害の傾向をもった生徒に対して、学校あげて全教職員が一致協力して組織的に対応する。その集約は、教育相談担当教員が行い、具体的な対応の方策を提案する。	A	A
	(2) 不登校生徒に対して、担任、教育相談担当教員及びスクールカウンセラーが定期的に関わりを行い、また、家庭訪問や電話連絡を通して保護者との連携を密にし、外部の相談機関などの協力を得ながら、ケース会議を開いて具体的な係わりを明確にし、不登校の改善を図る。	A	
	(3) 発達障害の傾向を持つ生徒に対して、その障害の把握と理解を図り、ケース会議を開いて個々の生徒への関わりを明確にし、全教職員の共通理解のもとに対応し、その対象生徒が安定した学校生活を送れるようにする。	A	
開かれた学校作りの推進と募集定員の確保	(1) 広報誌(学校案内、各種パンフレット)を発行し、また、ホームページを充実させることにより、情報発信を積極的に行う。	A	A
	(2) 学校行事(東風祭、芸術鑑賞会など)や授業(教科、道徳など)を地域や保護者、中学生などに一般公開することにより、本校の教育活動の理解と周知を図る。	B	
	(3) 中学校や塾の教員対象の説明会を実施し、また、中学校や塾を積極的に訪問することにより、中学校や塾との連携強化と教員との信頼関係の構築を図る。	A	
	(4) 学校見学会、入試説明会及び入試対策学習会を実施し、本校への入学の動機づけを強固なものとする。	A	

令和5年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
教務部	1 生徒が成長できる授業の実践と行事の実施 (教育計画)	(1)他部署と連携し行事を円滑に行う。次年度年間行事予定の集約を円滑に行う。 (2)各教科にシラバス作成を依頼する。評価項目と評価基準を明確にし、生徒が自己成長につなげる様依頼する。 (3)教員各々が観点別評価の事例を学び、指導力向上につながる機会を創出する。 (4)自己研鑽の一つとし研修に参加し、教科内、部内での報告会を行う。	B	(1)年間行事予定表にない行事においても、他部署の要望を聞き、日程調整することができた。 (2)(3)年間を通し観点別評価を行ったことで、次年度のシラバスに反映する流れができていていると感じる。評価項目と評価基準を明示できる様に促したい。 (4)積極的な研修への参加ができなかった。次年度は、部内での報告会を行いたい。
	2 計画的な生徒アンケートの実施 (実態調査)	(1)生活調査と学習調査を複数回行う。教務部全体で集計する。 (2)生活調査と学習調査の結果を該当学年に伝え、その後の面談等に利用していただく。	A	(1)(2)生活実態調査・学習状況調査「生活編」を2回、「学校編」と「進路指導編」を1回ずつおこなった。また、その結果を該当学年にお伝えした。効果的に面談等に使用いただけるように次年度促したい。
	3 ルーティン業務の輪番化 (記録・時間割・別室)	(1)教務日誌を輪番化する。生徒の異動等を把握する。 (2)時間割振替業務を輪番化する。選択科目の組み合わせを理解する。 (3)別室の記録への記入を輪番化する。別室利用者の状況を把握する。	A	(1)生徒の出欠状況及び異動状況に関心をもつことができた。 (2)時間割振替業務は定着度が低く、次年度は方法を改善し提案したい。 (3)負担を均等にする点で効果があった。関与度が高くなり改善の提案もあった。
	4 バス・奨学金業務の確実な遂行 (バス・奨学金)	(1)生徒サービスの一環と位置付け、分かりやすい説明を行う。 (2)両業務とも部員間での連携を密にし、漏れを防ぐ。	A	(1)(2)バス・奨学金とも部員間での連携を密にし、漏れを防ぐことができた。ほぼ、ミスはなかった。また、バスの遅れ等にも臨機応変に対応できた。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
教務部	5 テスト業務の円滑な実施 (時間割)	(1) テスト時間割と監督割を作成し、1週間前に告知する。返却特編時間割の作成と告知も行う。チャイム設定方法を学ぶ。 (2) テスト欠席者の追試を計画し、学年と協力し実施する。テスト未受験者を記録していく。	A	A	(1) 時間割業務を初めて担当する先生が多かったが、経験者と協働しながら、期限を守った告知ができた。時間割業務に携わる先生の理解度を次年度深めたい。 (2) 追試の実施において、教務部主導で行い、その後学年にお願いすることで高い受験率を維持することができた。
	6 教科書・教材・備品の管理 (教科書・備品)	(1) 次年度使用教科書の取りまとめを正確に行う。また、副教材の再注文業務をシステム化し、支払いまでの流れを確立する。 (2) 消耗備品を把握し、管理する。	A		(1) 次年度使用教科書申請に過ちがあり、後日訂正する運びとなった。教科からの申請を鵜呑みにせず、確認することを徹底したい。 (2) 消耗備品管理は、先を見据えさらに抜けが無いようにしたい。
	7 正確な数値と生徒異動の管理 (文書統計)	(1) 月別異動報告の把握と報告を正確に行う。 (2) 指導要録記載の方法及びスクールエイドへの入力方法を正確に伝える。また、年度内完成を目指す。 (3) 定期考査後、成績個表を発行し、生徒が自ら振り返る機会とする。 (4) 文書及びデジタル文書を整理し、活用できる環境を整える。不要な文書を決まりに沿って処分する。	A		(1) 月別異動報告は、概ね正確に報告することができた。 (2) 指導要録記載方法を1月に起案し、早く取り組むことができた。記入内容についても詳細に提示することができた。 (3) 成績個表を素点入力後、速やかに発行し、各学年に配布することができた。 (4) 文書及びデジタル文書は、制度化するまでには至らなかった。次年度に引き継ぎたい。

令和5年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
生徒指導部	1 交通ルールの遵守とマナーの向上	(1)交通安全指導の徹底。 (2)巡回・立哨指導の実施。 (3)自転車通学者への個別指導。	B	<p>今年度の交通事故件数は4件であった。幸いにして大きな事案となることはなかったが、すべて自転車絡みの事故であった。次年度も、継続して交通安全への意識を向上させていく。その際、交通事故防止の観点だけでなく、事故後の対応なども指導していく。</p> <p>今年度の特別指導の件数は19件であった。昨年度よりも減少しているが、来年度も減少させるように未然防止に取り組みたい。また、外部の方からの苦情は5件であった。さらに規範意識やマナーを向上させていく。</p> <p>今年度に東風クラブの規約を変更し、次年度以降、新たな東風クラブへと進化させたい。</p>
	2 規範意識の向上	(1)面談における注意喚起。 (2)保護者への協力依頼。 (3)生徒への積極的な声掛け。 (4)掲示物等からの注意喚起。	B	
	3 問題となる行動の未然防止	(1)校内巡回の徹底。 (2)情報の収集と共有。 (3)各学年との連携。 (4)保健厚生部との連携。	B	
	4 学校行事の活性化と工夫	(1) 東風クラブ役員の指導。 (2) コミティ活動の活性化。 (3) 生徒の主体性の育成。	A	

令和5年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
進路指導部	1 将来に対して、夢や希望が持てるようにする。	進路講演会や、進路相談会を企画し、進路を考えるきっかけを作る 医療看護にかぎらず、外部企画を増やす。	A	医療系模試の実施回数が行事と重なり実施回数が少なかったことを改善する。 学年主導の進路行事は現実的に無理があると感じたため、必要な企画は進路指導部が企画するよう変更する。
	2 興味のある学問や職業に必要な進路知識や学力を身につけられるようにする。	講演会や体験学習と並行して、本校の状況に合わせ、大きく3つの分野(大学進学・専門学校・医療看護)の模擬試験を実施する。	B	
	3 全生徒が卒業後の進路を決定できるよう、所属学年の進路指導部担当者が中心となって活躍する。	年間計画以外で、各学年独自の進路企画を行う。各学年に必要な内容を学年部と協議し、LHRを利用して行う。また、できるだけ仲介業者を通さず、直接各学校の入試担当者を迎えて本校で進路講演などを行う。	B	

令和5年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
保健厚生部	1 健康や安全に関する基本的な知識や習慣を身につけさせる。	(1) 保健厚生部長, 養護教諭, 教育相談, 学年部長, 担任の連携を強化する。 (2) 保健だよりを発行する。保健に関する意識を高める。 (3) 新型コロナウイルス感染予防として, 毎朝の検温, 健康観察を行い, 手洗いやアルコール消毒に努めさせる。	B	1 管理職, 学年・担任との保健室利用報告共有が学年毎に誤差が生じていた。来年度は統一を果たしたい。 (ファイルを作成して共有する) 検温・健康観察について実施はしたが, 全確認は未達成だった。ファイル管理は行った。 次年度は, 学校保健安全法に則て感染症対策, 出席停止の改正を行う。 2 生徒が主体的に動ける清掃分担方法と教員の監督制を考える。 エココミティを活用してアルコール, 液体石鹼の補充実施。次年度も継続する。 3 計画的にきめ細かく佐藤先生と連携を取って教育相談を実施。関野先生による研修を2回。外部講師を招いての研修を1回実施。次年度も継続したい。教育相談だよりを毎月発行した。
	2 快適で安全な環境づくりに努める。	(1) 教室環境の整備をする。 (2) 環境美化の充実。 清掃活動や, 清掃用具等の整備などを通じて, 環境美化を図るとともに, 物を大切にする人間性を育む。 (3) コミティを運用する。主体的に活動できる人材育成を目指す。	A	
	3 教育相談の充実。	(1) 特別支援教育に関する情報を共有化することにより, 素早くきめ細かい教育相談を行っていく。 (2) 教育相談だよりを発行する。人格の成長への援助を図る。	A	

令和5年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
渉外部	1 保護者の会の円滑な運営を図る。	(1) 新型コロナウイルス感染症の位置づけが「5類」に移行するのにもとない、保護者の会総会を開催する。	A		1 久しぶりに総会を開催できた。コロナ禍で実施されていなかった総会が久しぶりに実施することができた。今後、総会が継続して実施できるように、マニュアル化をして行きたい。 2. 地域への活動は、自治体等のホームページを必ず目を通し、イベント開催の有無を確認すること。 3. 成人教育を初めて実施することが出来た。今後時期や内容を検討し、更に充実した企画をしたい。 ・保護者の会研修視察が好評だったことを踏まえ、更に良い企画をしたい。 ・メッセージ、年賀状などの発送をより効率化できるようにしたい。
	2 地域的な活動に協力する。	(1) 地域的な活動は自治体（かすみがうら市、土浦市、石岡市）などのホームページに必ず目を通し、イベントが開催された折には、保護者と共に巡回指導をする。	A	A	
	3 対外的な諸活動を滞りなく行う。	(1) 式典のメッセージカードの発送、お礼状の発送、年賀状等の準備を早めに滞りなく行う。	A		

令和5年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
入試広報部	1 入学者 160 名を確保する	(1) 推薦・単願受験者の増加 (2) 個別相談の充実 (3) 中学校・塾訪問の充実	B	B 個別相談を柔軟に受け入れ、中学校や塾への訪問を強化する。 単願と併願受験の差別化をはかる。 中学校の進学指導に合わせ、説明会の時期、内容を決定する。 情報が見やすく、説明会への申し込みがしやすいホームページを作成する。 本校の特色である医療・看護進学コースの取り組みと進学指導について発信する。
	2 受験者数を 750 名へ増加させる	(1) 説明会の充実 学校説明会 3 回 入試説明会 3 回 入試対策学習会 2 回 入試相談会の実施 (2) ホームページの発信を充実させる	A	
	3 本校のアピールポイントの共有と発信	(1) 他部署と連携し、本校のアピールポイントを共有する。 (2) 担当係ごとに情報を発信する	B	

令和5年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
国語科	<p>1 進路実現のための実力養成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語彙力 ・評論読解力・小説読解力 ・古文読解力・漢文読解力 	<p>(1) 特別進学コース・医療・看護進学コースを対象に授業内に入試対策として漢字・古語・語彙に関する小テストを実施する。</p> <p>(2) 学期毎に、学習単元を評論と小説を交互に一つずつ扱う。特別進学コースでは入試問題演習を行う。</p> <p>(3) 古文漢文は、概要を理解できるための基礎的事項習得を徹底する。</p>	A	<p>十分目標を達成できた。授業内学習から家庭学習へ自主自立的学習への昇華が課題である。</p> <p>(1) 小テストも従来の紙による実施からデジタルコンテンツの活用などの工夫が求められる。</p> <p>(2) 模試対策や入試問題演習の時間の更なる確保と結果を出すことで意識の向上を図る。</p> <p>(3) 学年に応じて反復指導を継続して知識の定着を図る。</p>
	<p>2 社会生活を営むための基礎力養成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常用漢字を基本とする語彙力 ・一般教養としての国語基礎 ・表現力 	<p>(1) 進学コースを対象に授業内に常用漢字に関する小テストを実施する。</p> <p>(2) 漢字検定や日本語検定の受検を奨励する。</p> <p>(3) 作品創作や発表形式で「書く」・「話す」能力を養成する。</p>	B	<p>概ね目標を達成できた。従来の読解力に増して、一層の表現力をつけることが課題である。</p> <p>(1) 事後指導の強化で知識の定着を図る。</p> <p>(2) 更なる声かけ、奨励を要する。</p> <p>(3) iPadを活用し、各々が意見を発信する場を確保し、添削や返信を徹底指導する。</p>

令和5年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
地歴公民科	1 ICTを活用した授業づくり	(1) 写真や地図の拡大・縮小、画面への書き込み、映像視聴等から理解力を高める。 (2) タブレットを活用し、積極的に協働学習を行い、思考力、判断力、表現力等を育成する。	A	<p>1 (1)(2) 主にロイロノートを用い、視聴覚授業や生徒の意見を共有するなど、生徒が受け身にならない工夫をした。次年度以降も、引き続きタブレットを使用した授業展開を実践していく。</p> <p>2 (1) 定期考査では、時事問題を取り入れ、普段から時事に関心を持てるような働きかけを行った。また、社会的な事象を取り上げた際には、論述させるなどの工夫を凝らした。次年度以降も継続して行う。</p> <p>2 (2) 受験科目又は大学進学時の課題等で特に必要な生徒には個別に問題演習を行うなど、個々に合わせた取り組みを行った。次年度以降も継続して行う。</p> <p>3 (1) 大学入学共通テストを踏まえ、傾向や対策について教科内で共有し合う必要がある。</p> <p>3 (2) 各教員2回の研究授業を実施した。各コースの特性を踏まえ、生徒が主体的に参加できる授業を考えていく。</p>
	2 進路目標に応じた受験指導	(1) 身近な社会的事象を題材として扱い、その原因と問題解決について分析し、筆記試験だけでなく、面接試験や小論文試験にも対応できる力を身につける。 (2) 演習授業や課外授業、個別指導などを行い、生徒の進路目標に応じた学力を育成する。	A	
	3 教員の指導力向上	(1) 大学入学共通テストの過去問題、試行問題等から、求められる力を分析し、授業に反映する。 (2) 生徒が主体性をもって取り組める授業を日頃より意識する。他者の授業を見て自分の授業を改善する。	B	

令和5年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
数学科	1 基礎学力の定着	(1) 習熟度別授業や個に応じた指導を行う。教科書の基礎的な部分の理解が不十分な生徒へは補習等を実施し、理解度の向上を図る。必要に応じて、放課後や長期休業などを活用して個別指導を行う。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT教材を利用した家庭学習の充実 ・就職や専門学校対応の受験対策演習 ・全コースでの週末課題の実施 ・放課後課外をさらに充実させる
	2 継続的な学習習慣の育成	(1) 授業ノートや演習ノートの点検を随時行う。また、定期的に宿題を課し家庭学習の習慣化を図るとともに、小テストを実施し、学習への意欲を喚起させる。	B		
	3 進路目標に応じた受験指導	(1) 進路目標別授業を実施し、大学入試、専門学校入試、公務員試験、就職試験など、それぞれに対応する演習を行う。 (2) 演習授業や放課後や個別指導などを利用して、生徒の進路目標に応じた数学の学力を育成する。	A		

令和5年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
理科	1 学習意欲を高める。	(1) 知的好奇心や探求心を持たせるため、目的意識を持って観察・実験を行う。 (2) 教科書、教科書傍用問題集を主に使い、予習復習がしやすいようにする。 (3) 電子黒板や動画を用いて視覚にうったえた授業を展開する。	A	1 今年度は全クラス同じ実験を行うことができた。さらに、実験の回数を増やしていく。 2 レポートを作成し、グループで話し合い発表させる。他人の意見も記入できるようにレポートの内容を工夫する。 3 小テストの回数を増やし、学力の定着を図る。 4 基礎から応用まで、進路に向けた課外を行う。サテラインの参加者を増やしていく。
	2 思考力・表現力を高める。	(1) 人前で発表するのが苦手な生徒が多いので、ロイロノートを使い意見の共有を行う。 (2) 演示などの実験を通じ、レポート作成をさせる。他者の意見を聞いて新しい考えに気付いたり、自分の考えを再確認したりしながら、自分の意見を他者に分かりやすく伝えられるようにする。 (3) 発表など能動的な授業態度を評価していく。	B	

	3 知識・理解の定着を図る。	(1) 単元ごとの小テストを実施し、学力の定着に努める。 (2) 定期考査対策として教科書傍用問題集や、スタディーサプリを活用し、知識・理解の定着を図る。	B		
	4 進路希望に応じた指導をする。	(1) 課外を実施し、受験に向けた基礎から応用までの指導をする。 (2) 受験対策として、レポート制作を取り入れ、推薦・総合型入試対策を企画する。	B		

令和5年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
英語科	1 基礎学力を重視した学習活動の展開	<p>(1) 生徒の学習状況を理解し、生徒の状況に応じた授業を展開する。基礎的な英文法を反復し、発展できる土台を作る。</p> <p>(2) 特別進学クラスでは、共通テストを意識し、リスニングと速読を中心とする。進学クラスでは、生徒が主体的に取り組める活動を取り入れる。</p>	A	<p>(1) 基礎基本定着のための反復練習に時間を割き、ある程度の成果は得られた。既習の内容に戻り、生徒の理解度を確かめながら、段階的に学習を進める必要がある。</p> <p>(2) 特別進学クラスでは、共通テストの対策となる授業が出来た。進学クラスでは、ALT との活動において、主体的に学習に取り組むことができた。</p>
	2 ICT（情報技術）を用いた授業の展開	<p>(1) ICT（情報技術）利用が目的とならない利用方法を教科内で共有する。</p> <p>(2) 他教科における ICT（情報技術）の利用方法を参考とし、英語科における活用方法を検討する。</p> <p>(3) ロイロノートやデジタル教科書を利用しながら、生徒の実態に応じた利用する。</p>	A	<p>(1)(3) ICT（情報技術）の利用は、年度を通し、単語学習や音読学習で頻繁に活用した。一方で、授業内での ICT（情報技術）利用のバランスを意識して、授業を展開することができた。</p> <p>(2) 他教科の ICT（情報技術）の利用方法を、研究授業などで学び、追試してみることができた。</p>
	3 学び続ける教員 ・民間の英語4技能検定の受験 ・問題研究 ・研究授業を一回以上実施する	<p>(1) 英検、TOEIC など、民間英語4技能検定を受験または過去問を解き、自分なりの教え方を確立する。</p> <p>(2) 共通テスト筆記100点・リスニング100点を全教員が目指す。</p> <p>(3) 生徒が主体性をもって取り組める授業を日頃より意識する。他者の授業を見て自分の授業を改善する。</p>	B	<p>(1) 英検、TOEIC などの各種検定に取り組み、英語力向上だけでなく、問題傾向や変更点などを把握することができた。</p> <p>(2) 各教員が共通テスト過去問演習を行い、指導にいかすことができた。共通テスト実施後は、各教員が問題を解くことで傾向を知ることができた。</p> <p>(3) 英語科だけでなく、他教科の授業を見て自身の授業に取り入れるようにした。</p>

令和5年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
情報科	1 パソコン室のシステムの理解 (生徒・教員)と安定的な運用。	主に、google アカウントの管理・作成、パソコンやプリンタの保守管理	A	新課程の完成年度となる。プログラミングを中心に、指導内容が大きく変わるため、プログラミングに関する指導が出来ることと、デジタル教材の活用について教員が一層対応できるように研修を重ねる。
	2 高校卒業後に困らないような基本的な技術の習得	携帯端末(スマートフォンやタブレット)は操作できるが、パソコンになれていない生徒が多く、進学や就職時に困る生徒が多い。情報科では、パソコンを使うことを中心にする。また、プログラミングについての指導を入れる(Python)。	A	
	3 情報モラルの向上	SNSに関するトラブル指導、著作権など法律に関わる指導は丁寧に繰り返して指導する。	A	

令和5年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
芸術科 (音楽Ⅰ・ 美術Ⅰ・ 書道Ⅰ)	1 生徒一人一人の個性に応じた感性を引き出し、伸長する。	(1) 芸術的表現力(演奏・表現・書写)や技術の向上を図る。 (2) 作品鑑賞を通して、自己や他者の価値意識を育てる。 (3) 指導者の経験値や考えを強調しすぎないようにする。	A		<p>コロナ禍が落ち着き、歌唱指導・演奏指導の実技指導時間が持てるようになった。配慮をしつつであり、不足気味であった。</p> <p>古典芸能・伝統芸能の理解のため、芸術共通のコラボレーション授業の実施が叶わなかったため、次年度は実施したい。生徒が選択している科目以外の内容理解と興味関心を引き出すチャンスとなることが期待できると考える。</p> <p>「芸術鑑賞会」での塩ビ管尺八の指導体験は有意義であった。</p>
	2 我が国の伝統芸能の一端を理解し、尊重する態度を養う。	(1) 古典芸術の作品に触れる機会を多くする。 (2) 伝統芸能(邦楽・雅楽, 工芸, 書道)の技法や歴史を理解する。 (3) 日本独自の芸術文化をアピールする材料を探り、生徒自身が情報発信できるようにする。			

令和5年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
保健体育科	1 興味・関心を引き出せる指導の工夫	(1)生徒の実態に応じた簡易ゲームなどを取り入れ、生徒の競技への関心を高める。	A	A 簡易ルールを使ったゲームなどで技能を高めることで、正規のルールでゲームができるようにし、競技への関心を高めたい。 実技テストや知識テストを行うことで競技の理解をさらに深めることができた。しかし実技テストを実施できない競技があったので来年度はどの競技の実施できるようにしたい。 服装は一部の生徒を除いてはきちんできていた。また準備体操もきちん行ったので、負傷する生徒も少なかった。 積極的に授業に取り組む生徒が多かった。工夫した授業もおこなうことができた。さらに発表する機会を与えられるようにしていきたい。
	2 実技テスト・筆記テストの導入	(1)授業に合わせた実技テストを導入する。 (2)能力に応じてテストの内容を工夫する。 (3)実態に応じて筆記テストを実施する。	B	
	3 授業中の服装の徹底	(1)授業前に確認を必ず行う。 Tシャツの確認を行い、健康に留意する習慣をつくる。	A	
	4 保健の授業に於いて生徒を積極的に授業に参加させる工夫	(1)グループ学習や、発問を工夫して、多くの生徒が参加できる授業を行う。 (2)タブレットを積極的に活用させる。	A	

令和5年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
第1学年	1 生徒が安心して通えるクラス運営	(1) 定期的に生徒面談を実施し、良好な関係を築く。年間5回以上の面談を目標とする。 (2) 行事を通し、クラスメイトと協働することで、お互いを尊重する機会を設ける。 (3) 道徳の授業を通し、他者の考えを理解することで、他者を尊重する姿勢を身につける。	A	(1)(2)(3)3項目ともに、概ね実践することができた。次年度以降も、継続して行っていく。
	2 基本的な生活習慣の確立	(1) 生徒指導部と連携し、服装、身だしなみを整える。 (2) 教育相談と連携しながら、特別活動やHRの時間を活用し、生徒の心や人間関係づくりに取り組み、その中で規範意識や基本的な生活習慣を身につける。	B	(1)2学期以降、制服の着こなしに乱れが見られた。適宜注意をしたが、改善傾向が見られなかった。生徒指導部と連携を取り、指導の仕方を検討する必要がある。 (2)教育相談と連携を取り、ソーシャルスキルトレーニングを定期的実施した。また、登校支援として、教育相談やスクールカウンセラーとの面談や計画的な登校を実施し、生活習慣の見直しを図った。次年度以降も適宜行い、継続的な支援を考えていく。

	<p>3 学習習慣の確立</p>	<p>(1)生徒の特徴に合わせた面談での意識づけ，具体的な方策の共有を行う。</p> <p>(2)面談で共有した目標に生徒が着実に向かっているかどうか，日々の生活場面で観察・検証を行う。</p>	<p>B</p>	<p>(1)(2)全体指導から個別指導の流れを意識して声掛けを行った。定着するまでに至らないケースが多く，教員側も根気強く継続していく必要があった。次年度は，学習の記録など，具体的な活動まで手帳に記録を取らせるようにしたい。</p>
--	------------------	---	----------	--

令和5年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
第2学年	1 基本的生活習慣の安定と維持 転・退・休学者をださない指導	(1) HR、道徳を通して、挨拶・返事を励行し、習慣化を促す。 (2) タブレットのアプリを活用し、自己管理できる力を身に付ける。 (3) 生徒指導部と連携し、服装、身だしなみを整える。	C	B	転・退・休学者について目標未達成。 (1) 実践できている。継続して励行する。 (2) 連絡事項の配信をしているが、生徒が確認しない事例が多く、自己管理の徹底を強化する。 (3) 概ね良好である。一部女子生徒に化粧、靴下、スカートに指導を要する。
	2 進路意識の向上 未定者ゼロ・志望先のランクアップ	(1) 進路と連携して LHR を通じて啓蒙を図る。 (2) 各教科と連携し、成績不振者、課題未提出者等を把握、注意喚起を促す。 (3) 面談・アンケートを通じて学習状況を把握し、適切なアドバイスをする。	B		概ね達成できた。一部進路未決定者あり。 (1) ガイダンスへの取り組み姿勢に意識の向上が見られ、継続していく。 (2) 定期考査直前、放課後の対策授業の充実を図る。放課後自主学習の奨励。 (3) 担任だけでなく、副担任、教科担当との連携、声掛けを実践する。
	3 円滑な対人関係と協働作業の実現 修学旅行の成功	(1) 面談、日常における対話を重視し、生徒理解に努める。 (2) 学校行事、HR、授業内のグループワーク等他者と関わる機会を促す。 (3) 教育相談担当と連携し、人間関係の調整、支援をする。	A		十分目標を達成できた。 (1) 有効であり、次年度も継続する。 (2) SNS の正しい使い方、異性間の人間関係について継続指導を要する。 (3) 生徒、保護者に対する複数教員によるチーム支援を強化する。

令和5年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
第3学年	1 進路実現	(1) 二者面談を、年5回実施し、進路について、じっくり話す。 (2) 進路ガイダンスやオープンキャンパスに積極的に参加 (3) 面接練習、小論文・志望理由書の支援	A	B 現地点で、進路未決定者が1名。進路活動に出遅れた生徒もいるので、普段のHRなどで、早めの進路活動の大切さを促していきたい。 身だしなみには、再三注意を呼び掛けたが、特定の生徒は、毎日注意され続けた。毎回注意される生徒は、特別指導するなど学校で決めていただけるとこちらも指導しやすいと思います。スコラノートは、どんどん使用頻度が減少傾向になり、もう少し担任の先生にあきらめないで使用することを呼び掛けていく。 行事について、授業では得られない体験があることを周知させ、全員参加を目指したい。
	2 基本的な生活習慣・学習習慣の確立	(1) 挨拶・返事の指導の重視 (2) 遅刻・欠席をしないようにする指導 (3) 学校内のルールについての共通理解（特に身だしなみ） (4) 課外授業の推進・スタサプの活用 (5) 毎朝スコラノートを記入し、生活改善につなげる	B	
	3 部活動や特別活動の推進	(1) リーダーシップをもって、挑む。 (2) 全ての行事を貴重なものだと思い、取り組む。	B	
	4 ICT教育の充実	(1) 連絡手段として、Googleclassroomを使用し、毎日チェックする習慣をつける。 (2) iPad使用の習慣化	A	
				iPadを、進路活動や連絡手段で使用できたが、教科で、もっと使用してもらいたかった。